

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 年 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根付き普通の生活ができるように、地域密着型サービスの意義を全職員で確認している	○	地域密着型として19年の強化施策方針として推し進めていく
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	正職会議を軸に、実践内容を検討し、全職員に理念に基づいた目的を伝えている	○	検討内容が日常的に実践できるようにしていく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族は家族会を利用して伝えている 地域には新聞を活用している	○	地域の方がにより深く理解いただけるよう、方法を検討している 運営推進委員会にも取り上げている
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩、神社参りに出かけ挨拶・お話をしている 手作り作品を持参しながら、話相手にみえる方もいる	○	ふれあう機会を増やす為の、具体策を増やしていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	子供会の行事・学区の文化祭等に、利用者と一緒に参加している 地域の高校生や、障害者施設からボランティアに来てくれている	○	継続しながら、新たに参加できる内容を検討していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域住民を対象に、認知症について講習会を行っている 来訪者の相談を常に受けている	○	福祉用具の使いかについての、介護教室を予定している
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている 外部評価の結果は会議で報告し、改善委員をもうけ、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる努力をしている	○	改善委員会により計画的な改善策を立案していく
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事、事故報告等の報告を行い、現状を理解してもらい、意見交換し、改善方法を検討している	○	会議を基に地域の方を含めた防災訓練を行ったことで、出てきた新たな課題に向けての対策を検討している
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の研究現場として活用されている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し、必要と思われる対象者には対応している	○	施設内研修にて、職員の学ぶ場が必要である
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のミーティングやユニット会議で虐待についての理解を浸透するように話している	○	高齢者虐待防止関連法の勉強会を開いていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設長が時間をとり説明をしている</p>	<p>○</p> <p>重度化に伴い、家族会を利用しての、検討・再確認の必要がある</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市の介護相談員が定期的に訪問している 運営推進委員会議の場をフロアーで行うことで、思いを伝えられるようにしている 職員は毎日利用者の声に耳を傾け、職員全員が日々のケアに活かしている</p>	<p>○</p> <p>何気ない利用者のつぶやきを、声として取り上げる。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月毎の家族会にて説明している 個々の状況については、面会時に説明している</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に何でも言い合える関係を作っている 家族会では、職員が席を外し、家族同士で話し合ってもらう時間を取り、皆さんの意見や苦情等を代表者から伝えてもらっている</p>	<p>○</p> <p>個々については、ケースカンファレンスに参加してもらっているため、家族の意見を引き出せる場として活かしていきたい</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>施設長は個別面談を随時行っている 正職会議・ユニット会議にて意見を出し合っている</p>	<p>○</p> <p>職員の意見提案を聞く機会を増やし、充実させてほしい</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>フリーの勤務者が基本的にはいるため、緊急時対応に備えられるようになっている</p>	<p>○</p> <p>重度化により個別対応に要する時間が増えているため、検討が必要である</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職時は、お別れ会を催し、新職員は紹介の場をもうけ、大きな混乱のないように努めている</p>	<p>○</p> <p>急な離職がないように、体制作りが必要である</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職・職託・パート職員に区別なく、ユニット会議・勉強会に参加している 外部の研修には可能な限り参加している	○	正職者が、認知症の進行に合わせた対応方法について、十分理解し、他職員に指導できるように、勉強会を充実させていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連協、市のGH小部会等を通じて情報の共有を計っている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	長期休暇の取り組みを実施した 週1回、職員に向けたマッサージ師をいれている	○	精神面でのフォロー対策が必要である
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	基本的には就業規則を遵守し、健康管理とモラルの維持を意識している	○	職員個々との時間を充実させていく
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接を住み慣れた場所での設定をし、十分な時間をかけ、本人の生活状況を把握しながら、本人の思いを引き出せるよう向き合っている 又通所利用により、安心感が得られるよう努めている	○	利用までに本人の精神面を全職員が把握できるようにしたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み時や見学時に十分な時間を作り、話を聞いているいつでも相談に応じるむねを伝え、状況にあわせ対応をしている 事前面接時には、経過や現状をゆっくり聞き、信頼していただけるように努めている	○	家族の精神的ストレスにも目を向けた傾聴と今後の方向性や他のサービス等の紹介もしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・ケアマネジャーの相談に応じ、包括へつなげる等、施設長が主に行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	おやつタイムを利用するなどして、遊びに来る事を提案し、通うことで馴れていただいている	○	症例に合わせ、通所～泊まりの環境設定し、本人・家族に納得し、入所していただくようにする
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の様々な思いをくみ取り、共感しあえる関係づくりをしている 個々の役割分担を、見守りでできるよう支援している	○	職員、利用者の立場を超えて、お互いが協力できる環境が継続できるよう、職員の意識を保ちたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族介護の日を定期的に設けている 常に情報を共有し、日常的に協力関係が築けるように努めている	○	交流回数の少ない家族との関係作りの充実を計る
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態を面会時に報告、相談している 又面会時にはゆっくり一緒に過ごしていただけるように配慮している 行事には家族にも参加していただき、より良い関係の継続に努めている 電話や手紙等、気兼ねなくやりとりできるように支援している	○	身体状況の不安のある方の、家族外出の支援
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月のお墓参りや、利用していた喫茶店に行き、昔話をされている馴染みの人の来訪時には、ゆっくり一緒に過ごしていただき、いつでも来て頂ける様に伝えている	○	回想から出てきた人や場所への関わりができるような支援を、家族と共有しながら行っていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は、職員も必ず一緒に多くの会話を持つようにし、役割活動等を通して、利用者同士の関係が円滑になるように支援している 利用者間の悩みが何える時は、個別に話を聞き、仲介役となり、職員全員が把握している	○	認知症重度者への理解と、共存できるように、支援していくこと 後から入居された利用者への、上下関係的な関係にならないようにすること

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後、家族の相談、利用者の経過相談等にみえるため、支援している	○	情報の提供等、共有できるものは働きかけていく
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でつづやきを真にとらえ、職員全員で共有するようにしている 個人対応時には、しっかり向き合い傾聴している 言葉で伝えられない方は、表情・行動から予測されることを話し合っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時、調査用紙を基に情報収集している 利用開始後は、回想しながら本人の話聞き、家族や面会者から情報を得ている	○	暮らしの情報シートの変更をし、情報の再確認をしているところである
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用開始当初は、できることチェックをしながら、全体像の把握に努めている 又、定期的、状態変化時にも、できることチェックを行っている	○	できること、できないことシートの変更をし、正職が各担当者の現状を再確認しているところである
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中の変化を、職員はキャッチし、家族と共有し、カンファレンスに本人・家族にも参加してもらい、本人にとって良いケアは何かを検討し、作成している	○	直面している問題点に向けての計画としているため、長期的な目標も定めていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	内容見直しの時期の前には、カンファレンスを行い、職員間の確認をしながら見直しをしている 状態変化時は、随時カンファレンスを行い、ケアの統一ができるように作成している	○	定期的な評価をこまめに行えるよう定着させていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に、状態や対応内容を記載し、情報の共有とケアの統一を計っており、勤務前の確認を義務付けている ケアプランと毎日の記録がすぐ見られるようにしている	○	評価につなげやすい記録用紙への変更を予定している
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊等、随時要望に沿えるように努力している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員に運営推進委員会のメンバーになっていただき、生活を知っていただき、教育機関は小学生の来訪や、文化祭への参加をしている	○	個人での資源活用を支援していきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状態、希望に応じて、訪問リハビリ、床屋を利用している 地域の美容院には出かけている	○	地域に開業の理美容院の活用を進めていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地元の包括が参加し、情報の共有と協力体制が構築されている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近医との関係を密にしており、老人健診・定期受診・体調不良時・家族同行受診を行っている 家族会で、かかりつけ医師に協力してもらい、家族に話をいただいている。	○	ターミナルに向けての連携の充実を計っていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	内科医・心療内科医に相談し把握してもらっている 困難な事例は、福祉村病院に受診している 歯科医は、認知症の理解と対応が十分な医師が支援をしてくれている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤兼務で看護師が配置されており、健康管理、薬の管理を中心に行っている	○	ターミナルに関しての職員の勉強会を重ねていきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院スタッフ、家族と情報交換しながら、対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにしている 入院中は、職員が頻繁に見舞うようにして、入院によるダメージを防いでいる		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	即応歴からのリスクを把握し、状態変化に伴う同意書を家族からいただき、方針を共有できるようにしている	○	ターミナルケアに向けて、医療機関、家族の協力体制について
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の意向を踏まえ、職員がかかりつけ医師との連携をとり、緊急時の対応の確認をしている。	○	実際、看取りは未実施のため、繰り返し終末期ケアについての事例経験を重ねていく
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前説明を十分行い、併設の特養へ移る場合は、事前に何度も足を運び、慣れてもらうようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ・失禁時、食事中の食べこぼし等、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している 記録にはイニシャルで表記している	○ 日常的な言葉かけを、ユニット会議にて再確認しあうようにしていき、職員の意識向上につなげていく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コーヒータイムや食事時は必ず一緒に過し、引き出せるようにコミュニケーションをとり、自己決定できるように支援している 意思表示が困難な方には、表情や行動から読み取るようにしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながら、その日その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている AMのコーヒータイムには、その日何をしたいかを話題にできるようにしている 買い物や散歩等柔軟に対応している	○ 作品作り等では、個々のペースで進められるように、色々なパターンで提供できるように準備していく
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の馴染みの美容院で、希望のカットや毛染めをしている 金銭面から職員が毛染めを行う方もいる 希望の化粧品等一緒に買い物している 外出時は、個々の価値観に沿いおしゃれを楽しめるよう支援している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談しながら決め、調理盛り付け等も共に行い、楽しく食事できるように雰囲気作りも大切に職員も一緒に食べている 畑の野菜や、鶏舎の卵を一緒に採り、食材としている 流し台での片付け方に個人差あるため、スムーズに流れるようにさりげなく支援している 食事動作に注目を浴びないように、テーブルの位置設定の配慮をし	○ レベル低下があっても、できることを一緒に行う支援を常に行っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物の種類を豊富に用意しており、水分補給をかねて、その時の希望に沿えるようにしている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	生活リズムと共に、尿意のない利用者も時間を見計らって誘導することで、トイレで排泄できるよう支援している 個々にあったパット等を使用している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望時に対応している 介助の必要な方には、不安感を与えないため、職員全員でシュミレーションし対応方法の統一を計っている 浴槽での危険性のある方には、職員体制が十分に時間に入浴してもらっている	○	重度化に伴い2名介助の必要性があり、限定された人については、曜日指定+随時で動いていく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日中の生活リズムを調整し、安眠につなげている 寒い時期は湯たんぽを使用している 日中居室での休息の取れない方は、ソファで休息を確保している身体的状況に合わせて、昼寝をすすめ、夕方の安全確保につなげている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を基に、理解力を考慮して、役割分担した仕事をまかせきるようにして、見守りしている	○	地域活動への参加をしていく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て、所持している方は見守りしている 施設で管理している方も、買い物時は能力に応じて支払いをしてもらっている	○	買い物の機会を増やしていく
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行っている	○	職員体制の限界もあり、十分とは言えないため、ボランティア等の社会資源を活用して充足していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	1年前から全員の希望を踏まえた計画をたて、家族の同意を得て、年1回の全員参加の一泊旅行に出かけている 個別の墓参りや、季節ごとの見所へ出かけている	○	家族との外出の支援の充実を計る 一泊旅行も制限が多くなりつつあるが、想いを実現できるよう、家族や行き先の地元ボランティア等との連携を計れるよう発信していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時間帯を問わず受け入れ、本人の希望時は速やかに対応し、事務所や居室でゆっくり話せる雰囲気に対応している 毎年、年賀状・暑中見舞いのやりとりをしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間帯を問わず、遠慮なく面会できるようになっている 頻繁にみえる方は、利用者皆さんととけこんでいる	○	訪問者の接待もさりげなく対応し、負担にならない程度の言葉掛けを全職員共通で心がける
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修委員が主となり、勉強会を開き、職員全員が理解できるように取り組んでいる	○	認知症特有の身体拘束は何かと、疑似体験を通して感じることを繰り返していくことで、しないことへの理解を深める。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに生活している 玄関は自然な音が戸を開けると鳴るように工夫してある 出ようとされた時はさりげなく付き添い、庭散策や散歩につなげている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、利用者に背中をむけないことに徹しており、さりげなく職員がバランスよく配置できるよう、心がけと声がけをしながら、連携をとっている 夜間は1時間毎の巡回をし、所在確認をしている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	理解力に応じて、裁縫セットやはさみをもっている方がいるため、所持品の把握をしている 共有の危険物は、使用の際は利用者が使いやすい場所に置き見守り、使用しない時は所定の場所に保管、夜間は鍵のかかるところで保管している		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々のリスクファクターの洗い出しを十分に行い、常におき見守りしている 管理日誌に、事故・ヒヤリハットの記入欄を設け、全職員が把握できるようにしている 事故報告・ヒヤリハットはその都度報告書を書いている	○	ヒヤリハットを基にユニット会議で、防止策の検討を充実させていくリスクマネジメントの勉強会が不足しているため、予定をいれ、継続研修とする

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急蘇生法や、救急手当の講習は全職員がうけており、緊急時対応マニュアルの整備もできており、周知されている	○	毎年講習を受け、熟知していくようにする
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は定期的実施し、今年度は、地域の方の協力で避難訓練を実施した	○	毎年、地域の方協力の避難訓練を実施していくようにする課題も出てきたので、運営推進会議にかけ、地域の協力とGH連協の協力体制の設立を計画中
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時は現状とリスクについて、説明と相談をし、家族の意向も確認している ケースカンファレンスでリスクをあげ、ケアプランにつなげ、家族に同意を得ている	○	家族が日常的に本人のリスクを把握できるよう、記録を明確にし、いつでもみていただけるようにしていく
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタルチェックを行い体調の変化、表情、食欲に気をつけ、異常時は看護師に報告し、状況に応じて受診している 毎日の記録と申し送りで情報の共有をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表の裏に、薬の説明書きが貼ってあり、常に目を通せるようになっている 薬の変更や症状の確認は、申し送り、記録で共通理解できるようにしている 本人が服薬したことをしっかり見届けている	○	誤薬のない様にする
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日体操を行い、食事にバナナ、プルーン、アロエの原液等を習慣化し、排便のコントロールに役立っている 毎日排便チェックを行い記録し、排便障害のある人は、随時下剤を使用している	○	便秘による二次的な症状の発生がない様に対処していきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食後・就寝時は必ず口腔ケアを行っている 拒否のある方で、入浴時を利用して、入れ歯洗浄を行っている	○	自立の方の洗浄が不十分なので、声がけをしていながら、ブラッシングの方法を伝えていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりカロリーチェックをしている 好みの献立を取り入れ、調理方法を個々の状態に合わせて、食事量の少ない方には補食を行っている 水分量を把握し、少ない人については1日トータルのIN・OUTをとっている 記録欄に摂取量が少ない時は記録しケアの目安にしている	○	糖尿病の治療が開始された方がいるため、検討が必要となる
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成をもとに、ユニット会議や勉強会で実践対応を模擬訓練している 利用者の食事前の手洗いが習慣化されている 外部者の協力を得て、うがい手洗いの徹底をしている 職員・利用者全員が、インフルエンザの予防接種をしている	○	繰り返し学習すること、ウイルスを持ち込まない対策を徹底していくこと
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品の衛生管理は、消毒管理が徹底されていて、職員も十分理解している 食材は、毎日の注文か買い物とし、買いだめはせず、残り物はその日のうちに処分か冷凍している	○	冷凍庫の管理についてはルール決めが徹底されず、確実と言えないため、決めていく
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランタ・ベンチなど設置しており、家庭的な雰囲気になっている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作り作品が飾ってある 季節感を味わえる、飾りつけや音楽、料理を取り入れるように、心がけている	○	個人の能力を活用した内容のもので、季節ごとに変化させながら、空間作りを楽しみ、残存機能の活用に生かしていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やテレビ前のソファー、南側の日当たりの良い縁側、玄関外のベンチなど、思い思いにくつろいでいる姿があり、一人でのんびりしたり、話がはずんだりしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使っていた家具を使用し、本人好みの装飾を施している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は、全居室は食事中等、時間を取り決めており、又洗濯干し等の日常生活の中で取り入れている 臭気への配慮は、換気扇、消臭剤で補い、汚れ物は速やかに片付けている 温度計で確認しながら、利用者の様子を考慮しこまめに調整している	○	床暖の調整が十分できるよう、業者からの説明を徹底し、無駄な消費燃料をなくす
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在の身体状態に合わせて、トイレの手すりの追加、家具を利用しての手すり代わり、物干し場の移動による作業しやすい環境設定等を行い、自立支援と危険防止に努めている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	作業に集中できる環境設定を個々にあわせて行い、本人に任せるようにしている トイレの戸には使用中の札をぶら下げ、認識してもらえおり、鍵がかけれない方も、急にあげられてしまうことがない様にしている	○	他者との関係から怒りうるトラブルを予測し、混乱につながらないように、職員の情報交換をこまめに行い、生活の維持に努めていきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑やお地藏様があり、草花や野菜の収穫を楽しみ、季節を感じながら、散策ができるようになっている フロアーから見渡せる南側は大きな窓で、外には花を植え楽しめたり、日向ぼっこができるようになっている		

V. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		○	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)